

第2回鹿野地域振興会議議事概要

日 時：令和元年5月27日（月） 午後1時30分～午後3時00分

場 所：鹿野町総合支所2階 会議室

【出席委員】

高田守、小川義和、砂川重雄、山本章、佐々木千代子、筒井洋平、田中文子、藤原真道

以上8名出席（敬称略）

【欠席委員】

山下直司、兼平恵、池原美穂、向井健太郎（敬称略）

【事務局】

徳岡支所長、乾副支所長兼地域振興課長（併教育委員会事務局鹿野町分室長）、岡田産業建設課長、三谷市民福祉課長、小林地域振興課長補佐

【傍聴者】

なし

【日 程】

1 開 会

2 会長あいさつ

3 報 告

（1） 行事予定（資料ダウンロード）

（2） 「関係人口創出・拡大事業」モデル事業について（資料ダウンロード）

※関係人口とは、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる方々のこと

4 議題

- (1) 公共交通（気高循環バス）について（資料ダウンロード）
（鳥取西ブロック会議の議題として）
- (2) その他

5 その他、情報提供

6 閉会

◎議事概要

報告事項

(1) 行事予定

事務局より資料1に基づき説明

(2) 「関係人口創出・拡大事業」モデル事業について

事務局より資料2に基づき説明

【委員】関係人の滞在期間が1週間から2か月とあるが、最低が1週間ということか。また、何回来てもよいのか。

【委員】1週間以上だが、分割して何回来てもよく、延べ日数で考えている。旅費は相手側の負担となる。

【委員】東京での鳥取カフェは1日だけの開催か。場所はどこか。

【委員】谷中で一般に経営されているカフェを利用して、1日だけの開催である。

【委員】新橋のアンテナショップ「ももてなし家」は利用しないのか。

【事務局】開催予定のお店は、現在までも鹿野のまちづくりに関わっており、既に「関係人」と言える関係であるため、活用しています。

【委員】入込数はどのように算定されているのか。また城下町宿泊とは、どこに泊まるのか。

【事務局】町内の観光施設等の利用数を合算しています。

【委員】城下町宿泊は主にゲストハウス（田中邸）で、大阪国際大学・青山学院大学の学生が多く泊まっている。

議 題

(1) 公共交通（気高循環バス）について（鳥取西ブロック会議の議題として）

事務局より資料2に基づき説明

【委員】廃止予定の路線でこじか園経由の便は、17.6人/便あるが、8時台の宝木～河内～鹿野便を廃止してよいのか。

【事務局】乗車人数が多いのは7時台の河内～鹿野宝木便であり、8時台は少ないためです。

【委員】時刻表の見直しに関する意見については、後日でも委員の皆さんから事

務局に届けていただきたい。

【委員】代替え案の検討だが、公共交通空白地有償運送者支援事業要綱（以降、要綱・制度）に記載の費目は、赤字になった部分はすべて補填されるということ
でよいか。

【事務局】営業費用から営業収益を引いた部分の、10割補填されるということです。

【委員】問題はだれがどのように行うか、ということになる。

【委員】先行事例は、うまくいってないのか。

【事務局】まだ始まって間もないので、これからの取り組みによるが、事前の調査で利用すると回答された方が、あまり利用していないようです。

【委員】事故の時の対応が心配で、受け手がいないのではないか。

【委員】南地域で個人タクシーが委託を受けていたが出来なくなった。ほかに事業者もなく、やむなく市が運営しているようだが長続きはできない。要綱に5年間は継続することあるが、様々な対応を考えて、多数の協力者で体制を整えることを、広範囲なところで具体的協議をしないといけないと思う。
また、需要の調査も必要。

【委員】続かなかった場合の補助金の取り扱いがどうか、赤字補填されるからといって、需要もないのにただ運行していればよい、というものでもない。

【委員】通学利用にしても、現在小鷲河に2年生以下はいない。

【委員】必要なのは、通学、病院、買物の3つに絞られる。通学は人数により利用が絞られるが、高齢者対応のため空白地帯は作ってはいけない。

【委員】全国的に取り組んでいることなので、成功事例を調べて、その中でよいところを取り入れていってはどうか。

【事務局】昨年視察した、日南町の運営が成功事例といえると思います。

【委員】地域を守るというベースを作っていないと無理がある。

【委員】幅広く意見を聞き、成功事例だけでなく失敗事例も参考にしたい。
運営する人員は多く確保できればいいと思うが、補助は上限や用途など制約があるのか。

【事務局】現在の要綱が最終形ではなく、状況を見ながら見直ししていこうとしています。一般管理費で事務員も計上できるが、運賃収入の2割が上限となって

います。

【委員】運転手が事務も兼ねればいいのではないか。

【事務局】公共交通の空白地を埋めることが目的なので、実態と制度の乖離があれば、事業者が継続できる環境を市として整えていく必要があると考えます。

【委員】現在の制度が確定したものではなく、運用を考える中で相談しながら変えていけるととらえてよいか。

【事務局】事務手続きを踏まえて、制度内容の見直しを協議できます。

【委員】市としては、地元の善意により地元で考えてやってほしい、かかる費用については相談に応じます、という考えが読み取れる。

【委員】善意で運用した場合、心配なのは事故対応だ。保険や当事者への非難など、手厚い対策が必要だ。

【委員】鹿野地域で事業者の目星はついているか。

【事務局】今はまだないです。

【委員】バスを持っている山紫苑ではできないか。

【事務局】この補助金の制度では、株式会社等はできません。

【委員】時刻表については、意見があれば事務局に報告していただきたい。今後の検討に当たって、事例を提示し、様々な方に意見を聞く場を設定していただきたい。

【委員】ブロック会議の議題とするなら、具体的に各地域の課題や方向性が見えないと話が進まないのではないか。

【委員】循環バスの時間が合わず、利用していない面もある。事例の成功、失敗の理由も調べてほしい。

【事務局】事例は始まったばかりで、まだ失敗でなく試行錯誤段階です。

【委員】JRの接続を考慮してあると思うが、例えば、JR乗換者が無いなら他の利用者の希望を優先するなど、利用内訳を細かく確認し時間設定した方がよい。

【委員】先ほど意見のあった、西ブロック会議で議論するにあたっては、全体で問題意識があることを前提に、今後の改善策につなげる必要があるので、事前に事務局と会長で内容を詰めてほしい。情報交換で済む問題ではない。

【委員】一回で結論に至らなくても、改善策への対応がまとめられる方向にしないとブロック会議に挙げる意味がない。

【事務局】気高鹿野は同一ルートだが、青谷は別となる。事前にブロック内で協議します。

【委員】青谷でも空白地帯の課題があれば議題としては合う。事前の調べをお願いしたい。

(2) その他

【事務局】気高地域振興会議からの情報です。気高ではブロック会議の議題として、西道路の開通、道の駅のオープンによる地域の活性化について、西地域が連携した取り組みについて考えられています。

【委員】道の駅は出荷者への内覧会がある。

【委員】オープンイベントも出店依頼などが個別にあるようだ。地域ももっと盛り上げていかないといけないが、表立った情報がなく動けない。もっと情報を出してほしい。

その他、情報提供

【委員】最近の米作りには、大規模化とブランド化の2種類あるが、山間部が生き残るにはブランド化により付加価値を上げる必要がある。日南町が底上げを図ってきており、智頭、若桜が続いている。将来的にすたれないようにするために、一人や二人ではなく地域を挙げての情報発信し、産地化することが重要となる。

【委員】都市部は各地のブランドが多く入っているので、海外も視野に入れてはどうか。

【委員】やる気がある若い方を集めてもらえれば、自分の農業技術も伝授し、組織化して地域の底上げを図りたい。

【委員】参考にしていただき、地域の活性化にもつなげたい。

【事務局】ふるさと鹿野などで試行錯誤してきた経過はありますが、農業の担い手の把握ができていません。情報があればいただきたいです。

【委員】就農しても、補助金がなくなったときに行き詰ることが多い。先のことを考えて整理して取り組む必要がある。

【委員】大規模な農家でも、気候変動に合わせた改善をしないと大変だ。情報交換などしながら取り組んでいけたらと思う。

【委員】日南町は情報発信力が高く、米もうまい。立地条件が悪いのになぜ産地になったのか。

【委員】作り方や乾燥方法を変えた。県外の指導者にも指導を受けている。土壌が変わるまで数年かかるため、数年かけて取り組んでいる。

【委員】東京で行った鳥取カフェでも、鹿野産の米や果樹のジャムなどをPRしており好評だった。

【委員】果樹の里山の作付け品種はなにか。

【委員】いちじく、かき、くりなどです。

【委員】湯梨浜では山間部の水田をやめて、果樹を植える取り組みをしている。

6 閉会

第3回はブロック会議となるため、開催地である青谷支所と協議して決定します。7月下旬を予定しています。